

薬草教室だより 令和7年4月17日発行 第1号

東京都薬用植物園 〒187-0033 東京都小平市中島町 21-1 Tel042(341)0344

尾瀬の自然を楽しむ

みなかみガイド協会 山田 典一

【講師プロフィール】

1948年12月 群馬県沼田市に生まれる

1967年 東和銀行入行

2011年 同行退職

2016年 尾瀬自然ガイド認定試験合格

尾瀬国立公園

福島県・群馬県・新潟県・栃木県に位置し、日本でもトップクラスの豪雪地帯で、低温・多湿な環境条件が山上に湿原を作り出しています。

昭和9年（1934）に日光国立公園の一部として国立公園化され、平成17年（2007）8月30日に日光国立公園から分離され、尾瀬国立公園が誕生。

※日本の国立公園は、自然公園法によって指定・管理されています。その目的は「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の健康、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与すること」とされており、現在35か所が指定されている。

尾瀬国立公園の面積は37,200 haで、特別保護区の尾瀬ヶ原は東西に約6 km、南北に約2 kmの760 ha、尾瀬沼は周囲約9 km、水深は最深部で約9 mの184 ha、田代山山頂部湿原が20 haです。

尾瀬の植物

尾瀬は標高1,000～2,000 mと低山から高山の環境が広がり、関東と東北を結ぶ位置にあるため、地球規模の温度変化の中で、数多くの植物が出入りをしてきました。したがって尾瀬の植物は高山植物だけでなく、平地で見かけるものまでバラエティに富んでいます。この他にも多雪地帯であることから、日本海要素植物がおおいことや、多くの北方系植物にとって尾瀬が南限地であるという特徴もあります。

一部には至仏山の蛇紋岩地に適応した独特の植物も見られます。

こうしたことから、尾瀬は植物たちにとって様々な環境が入り混じった交流場所であり、生育する種類は多いのですが、逆に固有種が少ないという側面があります。



「オゼ」の名がつく植物

- ・オシダ科～オゼオオサトメシダ、オゼサトメシダ
- ・マツ科～オゼトウヒ
- ・キンポウゲ科～オゼトリカブト、オゼキンポウゲ
- ・スイレン科～オゼコウホネ
- ・トウダイグサ科～オゼタイゲキ
- ・クロウメモドキ科～オゼノクロウメモドキ
- ・キク科～オゼヌマアザミ、シロバナオゼヌマアザミ、オゼミズギク、オゼニガナ
- ・ユリ科～オゼソウ
- ・ホシクサ科～オゼイヌノヒゲ
- ・タケ科～オゼザサ
- ・カヤツリグサ科～ヒロハオゼヌマスゲ、ホソバオゼヌマスゲ
- ・ラン科～オゼノサワトンボ

※尾瀬でしか見られない植物・・・固有種はユキイヌノヒゲとオゼヌマアザミの2種

オゼヌマアザミは正確には武尊山（ほたかやま）山麓にも生育しているので、少し広めに見た固有種となります。

夏の思い出

作詞：江間章子 作曲：中田喜直

夏が来れば 思い出す
はるかな尾瀬 とおい空
霧のなかに うかびくる
やさしい影 野の小路(こみち)
水芭蕉の花が 咲いている
夢見て咲いている水のほとり
石楠花色に たそがれる
はるかな尾瀬 遠い空

夏が来れば 思い出す
はるかな尾瀬 野の旅よ
花のなかに そよそよと
ゆれゆれる 浮き島よ
水芭蕉の花が 匂っている
夢見て匂っている水のほとり
まなこつぶれば なつかしい
はるかな尾瀬 遠い空



尾瀬の木道

尾瀬の木道は、大半が環境省や東京電力が分担して設置・管理を行っています。その総延長は 65 kmにも及びます。木道の耐久年数は環境条件によっても異なりますが、一般的には 7~10 年で交換。

環境面の配慮から防腐剤を使用していないため、入山者の往来が多い箇所や急傾斜地では耐用年数が短くなります。

材料はカラマツやスギで、1970 年までは現地調達していましたが、翌年から禁止となり、国内産のカラマツやスギをよそから調達しています。

山岳地での工事のために、資材の運搬にヘリコプターを使用していることなどから、多額な工事費がかかっています。

尾瀬保護の取り組み

・裸地化と植生回復

昭和 24 年（1949）に「夏の思い出」が流行し、戦後の混乱期から経済的余裕ができ始めた昭和 30 年代中ごろから尾瀬への入山者が増加し始めました。

木道があまり整備されていないこと、湿原への踏み込みがいけないという意識が低く、湿原のぬかるみを避け平気で池塘の浮島に乗るなどしていました。

湿原の保水能力を保つミズゴケを踏みつけることで乾燥化し、植生が保てずにぬかるみとなり、さらにそれを避けるために植物を踏みつけて乾燥化が進むという悪循環。

湿原の破壊が進む中、昭和 41 年（1966）から回復事業が始まります。

長年の事業によって、以前に比べると植生は回復傾向にあるものの、元の状態には戻っていません。

いったん植生が破壊されると、その修復には長い時間と大きな労力が必要。

・ごみの持ち帰り運動・・・1972 年から全国に先駆けて実施

・排水処理・・・山小屋、休憩所、公衆トイレでは合併処理浄化槽で排水処理

パイプライン・ヘリコプターによる汚泥処理

石鹸やシャンプーの使用自粛

トイレでのチップ支払

・移入植物・・・入山者が他所から持ち込む（オオバコやヒメジョオンなど）

・交通規制・・・マイカー規制

環境庁が 1974 年から尾瀬と上高地で車の乗り入れを制限

当初はミズバショウのシーズンのみ

1988 年から夏休み期間と紅葉シーズンにも拡大

尾瀬の動物

- ◆ほ乳類・・・ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、ホンドテン、オコジョ、ヤマネ、ノウ
(34種) サギなど
これらの動物は、なかなか出会うことはありませんが、見かけたらおどさずそっとしてあげましょう。
(特にツキノワグマは注意が必要です)
- ◆鳥類・・・カッコウ、カルガモ、マガモ、アオサギ、イワツバメ、カラス、メボソムシクイなど
(160種以上) 特に森林内では、鳥の姿が見えなくても様々な鳴き声が聞こえてきます。耳を澄ませて
じっくり聞きましょう。
- ◆両生類・・・サンショウウオ、ニホンイモリ、モリアオガエル、ヤマアカガエルなど
(9種) 尾瀬ヶ原の池塘では、イモリがのんびり泳いでいる姿をよく見かけます。また浮島には、
モリアオガエルの卵が産み付けられていることがあります。
- ◆魚類・・・イワナ、ヤマメ、アブラハヤ、ドジョウなど
(10種) 時々橋の上からイワナが泳いでいる姿を見ることがあります。
- ◆トンボ・・・ハッチョウトンボ、ルリイロトンボ、オゼイトトンボ、エゾイトトンボなど
(約40種) 特にハッチョウトンボは日本で一番小さいトンボなので探してみたい。

尾瀬の山々

- ◆至仏山・・・標高2, 228m 日本百名山 蛇紋岩 エーデルワイス (ホソバヒナウスユキソウ)
- ◆燧ヶ岳・・・標高2, 356m 日本百名山 活火山 (500年前に水蒸気爆発)
- ◆会津駒ヶ岳・・・標高2, 133m 日本百名山
- ◆笠ヶ岳・・・標高2, 057m 高山植物が見事
日本百名山の至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳など美しい個性的な山があります。

尾瀬の気温

- ◆尾瀬ヶ原 (山の鼻) の年平均気温は4.8度で、東京の平均気温が15.6度なので、東京よりも約12度低
くなっています。

尾瀬の公衆トイレ

- ◆尾瀬の公衆トイレは22カ所設置してあります。大半が合併浄化槽で汚水処理を行っています。
トイレの機能を維持する費用として、1回100円程度のチップをお願いしています。

魅力いっぱいの尾瀬、皆さんもどうぞお越しくください。